

## 小学校英語用「評価ポートフォリオ」試案に関する一考察

—教育内容と教師教育の連動を目指して—

金澤 延美 伊東 弥香  
(東海大学)

### Attempting to Create Assessment Portfolios for Elementary School English in Japan: Some Implications From the ELT Teaching in LAUSD

Nobumi KANAZAWA Mika ITO  
(Tokai University)

本論は、日本における小学校英語の教科化を想定して、中学校英語につながる小学校英語の目標と評価のあり方を検討することを目的としている。具体的には、英語の音声と文字を融合した「教育内容」を可視化するために、小学校英語用「評価ツールとしてのポートフォリオ」を作成することの意義と重要性、およびその試みについて報告する。ポートフォリオ試案のために、カリフォルニア州ロスアンゼルス統一学区において英語学習者を対象として用いられるポートフォリオを参照事例とし、日本の英語習得環境に即した評価項目について検討する。

キーワード：小学校英語の目標と評価, Phonemic Awareness, 小学校英語用「評価ポートフォリオ」

#### 1. はじめに

日本では、平成 23 (2011) 年度から、小学校、中学校、高等学校の学習指導要領が順次全面施行され、小、中、高を通じた「コミュニケーション能力」育成という目標のもと、小学校で「コミュニケーション能力の素地」、中学校で「コミュニケーション能力の基礎」を養うこととなった(文部科学省 2008a; 2008b; 2009)。しかし、必修領域として 5・6 年生を対象に導入された「小学校外国語活動」(原則的に英語)は教科ではないため、原則的に教員養成は行われず、英語科教員免許を持たない小学校教員の手任せられることになった。また、指導内容についても、「中学校外国語科」との整合性に関して課題があらと考えられる。

#### 2. 研究の目的と背景

##### 2.1. 目的

本研究は、将来的な小学校英語の教科化を視野に入れ、教職課程履修者に求められる「英語教授力(英語力・指導力)」の「基準」について提言することを目的とし、小学校英語指導者のための「自己評価ポートフォリオ」

試案の検証を通し、2つの視点から研究を進める<sup>(注)</sup>。

- ① 小学校段階から始める英語の音声と文字を融合した「教育内容」：小学校英語用「評価ツールとしてのポートフォリオ」の作成
- ② ①の教科内容を指導できる教員の資質能力向上に寄与する「教師教育」のあり方：指導者用「自己評価ポートフォリオ」の作成

本論では、上記①に焦点をあて、中学校英語につながる目標と評価のあり方を次の2点において検討する。

- (1) 「スタンダード(standards)」規定による米国カリフォルニア州において、ロスアンゼルス統一学区((Los Angeles Unified School District; LAUSD))で英語学習者を対象として用いられるポートフォリオ「LAUSD ELD 評価ポートフォリオ」の評価項目について学ぶ(検討1)。
- (2) 上記の評価項目を参照し、日本の英語習得環境に即した小学校英語用「評価ポートフォリオ」の作成を試みる(検討2)。

## 2.2. 背景

### 2.2.1. 学習指導要領と評価

日本の小学校外国語活動、中学校外国語科の目標はそれぞれ、「コミュニケーション能力の素地」の育成、「コ

ミュニケーション能力の基礎」の育成である。松浦(2011: 48)は、評価の観点(評価規準)を「目標をかみくだいて評価の点から言い換えたもの」と説明しているが、両者を評価の観点から見ると、表1、表2になる。

表1. 小学校外国語活動：評価の観点及びその趣旨（国立教育政策研究所 2011a: 72）

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
趣旨	コミュニケーションに関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	活動で用いている外国語を聞いたりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言葉の面白さや豊かさ、多様なものの見方や考え方があることなどに気付いている。

表2. 中学校外国語科：評価の観点及びその趣旨（国立教育政策研究所 2011b: 21）

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
趣旨	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

小学校外国語活動では、「体験的に学んでいるか」「コミュニケーションに参加しているか」「外国語の音声と表現（聞くこと、話すこと）を使っているか」、中学校の外国語科では、目標において示されている4つの学力要素が「評価の観点」であり、小・中を見比べてみると、学力の枠組みにおいては相違はない。しかし、ここで筆者らが着目するのは、小学校での「外国語への慣れ親しみ」は言語習得の熟達レベルにおける定着を目指すのではなく、学習したことを理解し用いている状態を意味する点である。年間35時間の外国語活動の組み立て方は1単元（4回、1ヶ月）であり、各単元の中で外国語に慣れ親しむようにするという考え方である。言い換えれば、小学校段階で、必ずしも中学校で育成されるべき「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」のレディネスは設定されておらず、目標と評価の視点から中学校外国語科との整合性に関して課題があると考えられる。

文字指導を例にとると、文部科学省は小学校段階での文字の指導について、中学校外国語科との連携とともに、児童に対して過度の負担を強いることなく、音声に慣れ親しんだ段階で開始する配慮が必要と述べている。また、共通教材『Hi, friends! 1』『Hi, friends! 2』（文部科学省 2012a; 2012b）での文字の扱いもアルファベットの認識（大文字、小文字の名前）にとどまっている。一方で、中学校検定教科書『New Horizon English

Course 1』（東京書籍 2011）では、英語学習の導入期に「英語の音や文字」「英語の音とつづり」という文字の学習が取り入れられている。本書は検定教科書の1冊ではあるが、日本では理論的に、学習指導要領を具現化したものが検定教科書であるので、小学校外国語活動で身につける「素地」と、中学校英語の導入時期に期待される「素地」の解釈と実態には大きな隔たりが生じる可能性を示唆している。今後、小学校でどのような力をどこまで身につけるかという到達目標と評価基準を設定し、中学校の「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」のレディネスとしての「外国語への慣れ親しみ」の内容の検討とともに、小学校段階での文字指導のあり方を考える必要がある。

### 2.2.2 LAUSD 視察調査

筆者らは、平成16～17（2004～2005）年度、日本における一貫性英語教育の重要性、指導体制の確立の必要性に鑑みて、小学校英語の指導内容・方法に関する資料と指針を得るためにLAUSDへの視察訪問を実施した（金澤・伊東 2006）。本視察調査の結果、LAUSDでは「読みの能力育成のためには、アルファベットの知識と音素認識能力が不可欠な要因である」（Adams et al 2001）という言語習得研究のエビデンスに基づき、「英語の読み書き能力」の基礎作りに根差した、

2つの英語プログラムによる指導が行われていることが明らかになった。

- (1) Structured English Immersion (SEI) プログラム：英語を母語としない「英語学習者 (English Language Learners; ELLs)」(K-12) を対象とした「英語発達 (English Language Development; ELD) 指導
- (2) Mainstream プログラム：英語の母語話者を対象とした、「国語としての英語 (English-Language Arts; ELA)」指導

さらに、ELL 達を (1) から (2) へ導く過程において、

- ① 「音素への気づき (Phonemic Awareness)」育成を文字指導の一環としている。
- ② 評価ポートフォリオを用いて学習者の英語習得過程を可視化している。

という取り組みが LAUSD 指導の特徴として挙げられる。アレン玉井 (2008) は、英国圏での研究結果をふまえた上で、音声教育と文字教育の連携を重要視し、外国語環境にある日本の小学校においてもアルファベット指導と音韻認識能力を育てる指導の可能性・効果を報告しているが、LAUSD における実践は、日本の小学校英語学習の指導内容と評価を考える上で、重要な視点であると思われる。

### 3. ロスアンゼルス統一学区 (LAUSD)

#### 3.1. LAUSD ELD プログラム

米国では、「初等中等教育に限れば州の下に置かれた基礎的な教育行政の単位は学区が実質的権限を行使している」(岸本 1998: 19) が、原則的に公教育は州の責任である。LAUSD の取り組みの背景には、1990 年代の米国のスタンダード教育改革と英語教育における評価の考え方の変化がある。米国のスタンダード教育改革は、『危機に立つ国家 (A Nation at Risk)』(1983 年) 出版に始まり、ブッシュ政権下の「落ちこぼれゼロ法 (The No Child Left Behind (NCLB) Act of 2001)」(2002 年) 施行等によって、「スタンダード (standards)」を基礎にしなが、カリキュラムと指導、評価、アカウントビリティ、専門研修などに一貫性を持たせる教育システム作りの構想が推し進められた。改革開始以前の米国では「一般に、何を教えるのか (教育内容)、教えたことがどのくらい身についたのかの判断 (教育評価) について、多様であるが統一性を欠くという問題を抱えていた」(松尾 2010: 34) と言われている。スタンダード教育改革は、全ての

学習者に共通した到達目標を設定し、目標準拠の評価と密接にリンクさせることによって学習者の学力形成の状況を適切に測定し、学力保証を目指すものである。

カリフォルニア州においては、全米を代表する諸学問領域の研究者や専門家の最新の知見を反映したトップダウンのアプローチによって、1999 年、新しいスタンダード (カリキュラムフレームワーク) を発行し、教育内容スタンダードに基づくカリキュラム開発および評価・アカウントビリティのシステム構築を目指すことになった (California Department of Education 1999:v)。また、1997 年に可決した下院議案 748 によって、ELL 達 (K-12) のための「ELD スタンダード (英語学習者のためのスタンダード)」の開発を始め、ELL 達が英語に堪能になり、英語・言語科目の教育内容スタンダードの能力を身につけることができるように、教員達の支援を目指した (California State Board of Education 1999: 11)。

LAUSD は全米第 2 番目の規模を誇る学区であり、2011 - 2012 年度の登録数は 664,233 名 (K-12) (うちラティーノが 74.4%) であり (LAUSD 2012), ELL 達の英語習得は大きな課題である。筆者らの調査訪問時には、研究調査によるカリキュラム (research-based curriculum) のもと、「読み方を学ぶ (learning to read)」ために必要な 9 つの概念に基づき、体系的・明示的に指導 (systematic, explicit instruction) が行われていた—① The alphabetic principle, ② Print awareness, ③ Phonemic awareness, ④ Systematic, explicit phonics, ⑤ Comprehension strategies and skills, ⑥ Inquiry techniques and strategies, ⑦ The writing process and writing skills, ⑧ Spelling and vocabulary, ⑨ Grammar, usage, and mechanics (Adams et al 2002: vi) (下線は筆者らによる)。注目すべきは、①から③を ELD 指導で、③から⑨を ELA 指導で中心的に扱い、③ Phonemic Awareness を (国語としての) 英語力発達のために不可欠な要素として共通軸に据えている点である。ELD 指導プログラムでは、州のスタンダードを満たすように、ELL 達の英語の読み書き (識字) 能力の基礎を作ることを目指し、学区内の全小学校で統一カリキュラムのもと、リーディング教材 “Open Court Reading” を使用していた。

#### 3.2. LAUSD ELD 評価ポートフォリオ (検討 1)

ELD 指導プログラムでは、教師が生徒 1 人ひとりの言語習得過程をポートフォリオに記録する「LAUSD ELD

評価ポートフォリオ (ELD Assessment Portfolio)』を使用している。フォルダー型ポートフォリオは学年別 (Grades K-2, Grades 3～5 の 2 種類), ELD レベル別 (ELD1～5 の 5 種類), 全 10 種類ある (表 3)。評価項目は全 7 領域, それぞれの領域における

言語活動に対してスコア 1 からスコア 4 (1: Limited Progress, 2: Partial Progress, 3: Average Progress, 4: Advanced Progress) の 4 段階評価を用いるシステムである (表 4)。

表 3. 表 3. LAUSD ELD 評価ポートフォリオ (LAUSD 2001a)

ELD 1	Beginning level	Grades K-2 (K, 1 <sup>st</sup> , 2 <sup>nd</sup> ) / Grades 3-5 (3 <sup>d</sup> , 4 <sup>th</sup> , 5 <sup>th</sup> )
ELD 2	Early Intermediate level	Grades K-2 (K, 1 <sup>st</sup> , 2 <sup>nd</sup> ) / Grades 3-5 (3 <sup>d</sup> , 4 <sup>th</sup> , 5 <sup>th</sup> )
ELD 3	Intermediate level	Grades K-2 (K, 1 <sup>st</sup> , 2 <sup>nd</sup> ) / Grades 3-5 (3 <sup>d</sup> , 4 <sup>th</sup> , 5 <sup>th</sup> )
ELD 4	Early Advanced level	Grades K-2 (K, 1 <sup>st</sup> , 2 <sup>nd</sup> ) / Grades 3-5 (3 <sup>d</sup> , 4 <sup>th</sup> , 5 <sup>th</sup> )
ELD 5	Advanced level	Grades K-2 (K, 1 <sup>st</sup> , 2 <sup>nd</sup> ) / Grades 3-5 (3 <sup>d</sup> , 4 <sup>th</sup> , 5 <sup>th</sup> )

表 4. LAUSD ELD 評価ポートフォリオ: 7 領域 (LAUSD 2001a)

LS	Listening and Speaking: Strategies and Applications
RW	Reading: Word Analysis
RF	Reading: Fluency and Systematic Vocabulary Development
RC	Reading: Comprehension
RL	Reading: Literacy Response and Analysis
WS	Writing: Strategies and Applications
WC	Writing: Conventions

ELD ポートフォリオ (両面) には評価項目リストが印字され, 生徒の氏名, 生年月日, ID 番号のほか, 生徒のスコア, 担当教師の氏名や日付などを記入する。フォルダーの中に授業や宿題などで提出させたプリント等を挟んで保管し, 生徒の実際の活動記録を形として残し, 担当教師の変更あるいは生徒が学区内で移動する場合, ポートフォリオごと渡せば生徒の言語習得の記録 (到達度, 評価) がそのまま引き継がれることになる。ポートフォリオには様々な種類があるが, 筆者らは, 経験学習成果を評価・査定する (= 評価) 手段としてのポートフォリオの機能に着目し, 日本の小学生に「今, 自分はどのあたりにいるか」「次のステップに進むには何が必要なのか」を明確にイメージさせるために, 本 LAUSD 評価ポートフォリオを参照することに意義があると考えている。

著者らは, LAUSD 評価ポートフォリオの評価項目をより深く理解するために, ① ELD スタンダードの比較 (LAUSD とカリフォルニア州), ② ELD スタンダードと ELA スタンダードの比較 (カリフォルニア州), ③ ELD クラスタラベル (cluster label) (WestEd 2006) と ELA サブストランド (strand) の比較 (カリフォルニア州) を通して, それぞれの整合性や相違を調べる作業を行った。その結果, LAUSD ELD 評価ポートフォリオの特徴として 2 点が明らかになった。この 2 点は

日本の小学校英語のための目標と評価を考える上で有用な視点と思われる。

- ① Grades K-2 対象の LS 領域の評価項目 (3 学年共通, 4 レベル) を例にとると, LS1 において Phonemic Awareness 育成を始めることが分かる (表 5)。(下線は筆者らによる) さらに, ELD 1 レベルの生徒であっても, 「聞く」「話す」「読む」の領域において Phonemic Awareness 育成のための言語活動が取り入れられ, 「書く」分野ではアルファベット文字の認識・識別のための活動が入っている。
- ② カリフォルニア州 ELD スタンダードと比べ, LAUSD 評価ポートフォリオは全 7 領域において言語活動の簡単なものを追加設定したり, 文言を容易にしたり, 学年ごとに活動を少しずつ変更するなどの調整を行っている。この特徴は, RW と RF (ELD 1 と ELD 2), RW, RF, RC (ELD 3, ELD 4, ELD 5) において顕著で, 学年ごとに評価項目が設定されている。学習者の英語習得の状況に合わせ, 「読み」の領域を細分化し, 段階的・発展的な目標のもと, 読み書き能力の基礎を養うことに力点が置かれている。

表 5. ELD 1 (Grades K-2) : LS 領域 (LAUSD 2001a)

① Listening and Speaking: Strategies and Applications			
	Kindergarten	First Grade	Second Grade
LS 1	Begin to speak with a few words or sentences, using some <u>English phonemes</u> and rudimentary English grammatical forms (e.g., single words or phrases) .		
LS 2	Independently use common social greetings and simple repetitive phrases (e.g., "Thank you.", "You're welcome.") .		
LS 3	Respond to simple directions and questions using physical actions and other means of non-verbal communication (e.g., matching objects, pointing to an answer, drawing pictures) .		
LS 4	Answer simple questions with one- to two-word responses.		

4. 小学校英語用「評価ツールとしてのポートフォリオ」

4.1. 評価手段としてのポートフォリオ (検討2)

上記の LAUSD ELD 評価ポートフォリオの特徴をふまえ、日本の小学校英語用「評価ツールとしてのポートフォリオ」を作成するために、筆者らは次の①～⑤の手順を計画している。本項では、①について、Grades K-2 を対象とした ELD 1 と ELD 2 の評価項目と活動例の一部を報告し (表 6 ～表 19), ELD 3, ELD 4, ELD 5 については、LS 領域の評価項目の日本語訳を提示する (表 20 ～表 22)。

① LAUSD ELD 評価ポートフォリオを土台にし、英語の音声と文字を融合した小学校英語の「教育内容」を検討するため、評価項目の日本語訳を行うとともに、各項目の活動例を検討する。

② LAUSD ELD ポートフォリオの評価項目の配置をレ

ベル間、学年間などでチェックし、言語活動の全体像を把握する。

③日本の学習指導要領、「Hi, friends!」や、中学校1年生の検定教科書で扱っている言語活動、言語材料との整合性を見ながら、それぞれの評価項目が日本の小学生に適しているかを精査する。

④評価項目の言語活動の具体例を提示する。その際には、Phonemic Awareness 育成のために sight words など活用する。

⑤ポートフォリオ第1案を作成し、英語科教職課程履修者、小学校教員、中学校英語科教員対象にパイロット調査を行う。

4.2. ELD 1: Beginning Level

ELD 1 は入門レベルである。

表 6. ELD 1 (Grades K-2) : LS 領域 (試案)

① Listening and Speaking: Strategies and Applications			
	Kindergarten	First Grade	Second Grade
LS 1	英語の音素や基礎的な英語の文型(一単語あるいは句)を使って数語あるいはいくつかの文章を話し始める		
例	I Like Dogsゲーム: 数人でグループになり、I like dog. に続き、I like dogs and cats. I like dogs, cats, and pigs. のようにひとりずつ続けて文章を言っていく。pigを忘れてしまった場合はメンバーが /p//p//p/と言いながらのように初頭音のヒントを出す。		
LS 2	日常的によく使う挨拶や単純な繰り返しの言いまわし(「ありがとう」「どういたしまして」など)を1人で使う		
例	物をもらったりしたときに、S: Thank you. T: You're welcome. のやり取りをする。		
LS 3	身振りやほかの非言語(対象物を照合させたり、答えを指し示したり、絵を描く)を用いて簡単な指示や質問に答える		
例	Do you like cats? などの質問がわかり、うなずいたりする。		
LS 4	簡単な質問に1語、2語で答える		
例	Do you like dogs? などの質問に、Yes.と答える。		

表 7. ELD 1 (Grades K-2) : RW 領域 (試案)

② Reading: Word Analysis			
	Kindergarten	First Grade	Second Grade
RW 1	発話された英語の単語を繰り返す		
例	T: 身体の一部を触りながら、英語で単語を紹介する。  e.g. head, shoulders, knees, eyes, front, back, etc.  Ss: 教師の後に続けて単語を言う。	発話された簡単な句を繰り返す Head Shoulders and Knees and Toes ゲーム: Touch your eyesなどの指示を聞き、自分の目に両手を置き、Eyes.と答える。	発話された簡単な文章を繰り返す T: 黒板に Sakura, Hikaru と書く。 Sakura is 5. Hikaru is 7.と、言い、黒板の名前を指す。  S: (名前を読み) Sakura is 5.とりピートする。

RW 2	すでに聞いたことのある音素を認識する	すでに聞いたことのある音素を認識する	すでに聞いたことのある音素を認識する
例	黒板に p の文字と、ゴミ箱の絵が描かれている。/p/ で始まる単語の絵カード 4枚 (pen, pencil, pink, pig) とその他の音素 (例 /m/, /k/, /t/, /d/) で始まる絵カード 4枚 (例 map, king, tiger, doll) の計 8枚の絵カード (既習語) を 8人の生徒に配付する。生徒達は、単語の初頭音が /p/ か、それ以外かを判断し、黒板の p の横、あるいはゴミ箱の絵の横にそれぞれの絵カードを振り分けて貼っていく。	アルファベット探しの Game: 単語を聞き、黒板に書かれたアルファベットの中から初頭音を選ぶ。 T: Bed. S: B D P	絵と音素合わせゲーム: 黒板に絵カード (table, banana, paper, tree など) が縦に並んでいる。table など、絵に描かれているものを発音し、/t/ /t/ /t/ とその初頭音を発音しながら、t と書かれたカードを横に並べる。
RW 3	なし	同じ初頭音の単語を識別する	なし
例	なし	Picture Bingo ゲーム: /b/ で始まる単語 (bed, book, blue, basket, bat, black) の中のひとつを聞き取り、ビンゴカードの絵の下に書かれている単語の上にチップをのせる。	なし

表 8. ELD 1 (Grades K-2) : RF 領域 (試案)

③ Reading: Fluency and Systematic Vocabulary Development			
	Kindergarten	First Grade	Second Grade
RF	自分の名前を読む	話やゲームの中で簡単な単語を読み上げる (例えば、名詞、形容詞、色)	話やゲームの中で簡単な単語を読み上げる (例えば、名詞、形容詞、色)
例	教師がクラス全員の名前を英語で書いたフラッシュカードを一枚ずつ見せる。自分のフラッシュカードのときに、手を上げてカードの名前を読む。	黒板に大文字カード (A~Z) を貼る。グループごとに配付された名前カードの中から自分のものを取って友達に見せ、Yes/No と確認してもらう。 T: Masako, can you read your card aloud? S1: Masako. T: Good. How many alphabet letters do you have? S1: Six. T: Okay, do you have a letter which says 'm'? S1: Yes. T: So, who can point to the letter 'm' on the blackboard?	形と色のビンゴゲーム: circle, diamond, square, triangle, oval, star, のそれぞれの形に purple, pink, green, blue, black, yellow, white のいずれかが塗ってあるビンゴカードを生徒に配付する。親になった生徒が、単語カード 3枚ずつを読み上げる。 S1: Do you have a yellow diamond? Ss: Yes, I do. / No, I don't. S2: Do you have a blue square? Ss: Yes, I do. / No, I don't.
RF 2	大文字と小文字を一致させる	大文字と小文字を一致させる	基本的なカテゴリー内のよくみられる単語を特定したり分類したりする (例えば、色、形、食べ物)
例	黒板に A から Z までの大文字のカードを貼り、その下に適切な小文字のカードを貼る。	① 3, 4人でグループになり、机に大文字と小文字のカードをそれぞれ裏返しにしておく。神経衰弱の要領で大文字と小文字が同じだった場合にとることが出来る。 ② ワークシートに散らばっている大文字と小文字を線で結ぶ。	黒板に、ランダムに文字カード (red, star, circle, triangle, salad, banana, yellow, white など) を貼っておく。カテゴリー別にカードを集めて貼る。
RF 3	簡単な語彙の理解を適切な行動で示す	いくつかの社会的、学問的なやりとり適切に回答する (例えば、簡単な質問/答え、会話のやり取り)	いくつかの社会的、学問的なやりとり適切に回答する (例えば、簡単な質問/答え、会話のやり取り)
例	Do you have ~ の椅子とりゲーム: 生徒に単語カード (cat, dog, bicycle, brother, sister など) を配付する。最初に教師が "Do you have a ~ ?" と単語カード (例: dog) を見せながら、疑問文を読み上げる。該当する場合は "Yes, I have a ~ ." と言って、椅子から立ち、空いている椅子を探	ゲーム進行中に、友達と順番の確認を取り合うようなやりとりを行う。 S1: My turn? S2: No. My turn. と応える。	ゲーム進行中に、友達と順番の確認を取り合うようなやりとりを行う。 S1: My turn? S2: Excuse me? Can you say it again? と聞き返す。 S1: My turn? S2: No. My turn. Sorry. と応える。

	して座る。最後に椅子が見つからなかった生徒が、次にカードを読む役に回る。		
RF 4	絵や単語を使いながら簡単な話を自分の言葉でもう一度言う	絵、単語、句を使いながら簡単な話を自分の言葉でもう一度言う	絵、単語、句を使いながら簡単な話を自分の言葉でもう一度言う
例	教師が週末の話を発表する。生徒は教師から聞いた話を自分の言葉で言うようにする。教師が生徒を補助したり、英語で言えない表現は黒板に貼られた絵カードを使って、話を完成させる。完成後に、教師と生徒と一緒に話を読む。 T: I went to Machida yesterday. I went to a post office. And, I went to a supermarket. Then, I went to a flower shop. S: Michiko-sensei…先生が歩いている絵カードを置く。 T: (補助する) went to … S: Supermarket(わからない場合には絵カードを使用)	教師が週末の話を発表する。生徒は教師から聞いた話を自分の言葉で言うようにする。教師が生徒を補助したり、英語で言えない表現は黒板に貼られた絵カードを使って、話を完成させる。完成後に、教師と生徒と一緒に話を読む。 T: I went to Ikebukuro last Sunday. I went to two department stores. First I went to Tobuya Department Store. Next, I went to Seibuya Department Store. I got a sweater at Tobuya and I got a jacket at Seibuya.	教師が週末の話を発表する。生徒は教師から聞いた話を自分の言葉で言うようにする。教師が生徒を補助したり、英語で言えない表現は黒板に貼られた絵カードを使って、話を完成させる。完成後に、教師と生徒と一緒に話を読む。 T: I went to Shinjuku with my sister last weekend. We went to a department store and a big book store. My sister got a white skirt, and I got a red jacket. I also bought a comic book. Then, we had lunch at a Chinese restaurant. We had ramen. It was good.
RF 5	基本的なニーズを伝達するために簡単な語彙(一語)を産出する(例えば、場所、挨拶、教室内の物)	基本的なニーズを伝達するために簡単な語彙(一語あるいは短いフレーズ)を産出する(例えば、場所、挨拶、教室内の物)	社会的、学問的な状況における基本的なニーズを伝達するために簡単な語彙(一語あるいは短いフレーズ)を産出する(例えば、場所、挨拶、教室内の物)
例	Hello! / Good bye. / Here.	Hello! / I'm fine. / Where?/On the table.	Hi, how are you? / I'm sleepy./ Let me see. /

表 9. ELD 1 (Grades K-2) : RC 領域 (試案)

④ Reading: Comprehension			
	Kindergarten	First Grade	Second Grade
RC 1	身体を動かしたり、他の非言語的伝達的手段を使ったりしながら、彼らに読まれた話に口頭で応答する(例えば、対象物を一致させる、正解を指さす、絵を描く)		
例	① 教師が作った料理(ゆで卵、目玉焼き、カレーなど)の材料と手順を聞き、何を作ったかを答える。 ② 3 Bearsの物語の後、“Where is Goldie Locks?”の質問に対し、絵の中の答えを指差しながら、“In the kitchen.”と答える。		
RC 2	1～2つの単語を使いながら事実に関する理解の質問に答えることで彼らに読まれた話に口頭で応答する		
例	教師が作った料理の材料と手順を聞き、T: Did I put potatoes in my curry? S: Yes. T: How many potatoes? S: Two. のように、Tの質問に答える。		
RC 3	話やトピックに関係のある生徒自身の経験から絵を描く(例えば、社会科におけるコミュニティー)		
例	動物園に遠足に行く前(あるいは後)に、見たい動物たちの絵を描き、みんなに見せながら、I want to see a lion. And I want to see a penguin (penguins) のように言う。		
RC 4	教室や仕事に関する活動での簡単な指示(1つ)を理解したり従ったりする		
例	T: Stand up. /Let's make a big circle.などの指示に従って行動する。		
RC 5	キーワードや写真を使いながら、彼らに読まれた話の中での出来事の基本的な順序を特定する		
例	「動物のかけっこ競争」の物語を聞いた後、“The rabbit came first. Then, a panda came.”のように順位を説明する。		

表 10. ELD 1 (Grades K-2) : RL 領域 (試案)

⑤ Reading: Literacy Response and Analysis			
	Kindergarten	First Grade	Second Grade
RL 1	話を聴き1～2つの単語を使いながら事実に関する理解の質問に答えることで口頭で応答する		
例	“A Big Turnip”の話の後、T: Who came after the dog? S: Cat. のように答えることができる。		
RL 2	場面や登場人物を特定しながら文学作品に関する絵を描く		
例	“A Big Turnip”の登場人物を一部入れ替えて再話を聞いた後、全員でかぶを抜いている場面を描く。		

表 11. ELD 1 (Grades K-2) : WS 領域 (試案)

⑥ Writing: Strategies and Applications			
--	--	--	--

	Kindergarten	First Grade	Second Grade
WS 1	明瞭に英語のアルファベットを書き写す		
例	3本の罫線を使って、書き順も正しくアルファベットを書き写す。		
WS 2	教室内で掲示され、よく使用される単語を書き写す		
例	教室内のもの(window, door, table, chair, curtains, goldfish, plantなど)についている単語カードを見ながら、スペルを書き写し、友達同士で交換し、チェックしあう。		
WS 3	教師によって読まれた話の中の出来事や登場人物について2, 3の単語や句を書く		
例	"Brown bear, Brown bear, What do you see?"の絵本の読み聞かせ後、bear, bird, blue, green, I see a ~などの単語を書く。4, 5人のグループになり、時間制限を設け、各グループひとりずつが黒板に単語を書きに行き、正解数の多さを競うゲームに発展させても良い。		
WS 4	グループでの話から生まれた経験について句や簡単な文を書く		
例	週末や夏休み等にしたこと、起こったことについてグループで話、既出語を使ってみんなで句や文を作成する。		

表 12. ELD 1 (Grades K-2) : WC 領域 (試案)

⑦ Writing: Conventions			
	Kindergarten	First Grade	Second Grade
WC1	自分の名前を書くときには大文字を使う		
例	KEN SUZUKI		

### 4.3. ELD 2: Early Intermediate Level

ELD 2 は初期中級レベルである。

表 13. ELD 2 (Grades K-2) : LS 領域 (試案)

① Listening and Speaking: Strategies and Applications			
	Kindergarten	First Grade	Second Grade
LS 1	標準的な英語の文法形式や音についていくつかの一貫性のない使用があるかもしれないが、理解可能な発話を始める(例えば、複数形、単純過去時制、代名詞[he/she])		
例	He have a pet. I see two lion.		
LS 2	基本的なニーズを口頭で伝達する(例えば、"May I get a drink?")		
例	I have no pencils. May I use your pencil?		
LS 3	適切なジェスチャー、表現、実例となる物を使うことでよく知っている話や短い会話を自分の言葉でもう一度話す		
例	"Gingerbread Man"をジェスチャー等を入れながら再話する。		
LS 4	句や簡単な文を使いながら質問をしたり質問に答えたりする		
例	S1: I have a dog. S2: What's the name? S1: Hana-chan.		
LS 5	よく知っているライム、歌、簡単な話を朗唱する		
例	"Five Little Monkeys"の歌を歌う。 Five little monkeys jumping on the bed, One fell off and bumped his head. I called the doctor And the doctor said, "No more monkeys jumping on the bed."		

表 14. ELD 2 (Grades K-2) : RW 領域 (試案)

② Reading: Word Analysis			
	Kindergarten	First Grade	Second Grade
RW 1	同じ最初の子音で始まる話し言葉を特定する	同じ音で始まる単語を特定する	口頭で示された簡単な英単語の最初の子音を言う
例	①単語を聞いて、同じ初頭音で始まる絵を選ぶ。 bagと bat catと cap lemonと lock mapと milk penと pin	I spy with my little eye game: /s/で始まるものがたくさん描かれているピクニックの絵を見て、I spy with my little eye, something beginning with s. sandwiches, sunglasses, strawberries, snailsのように /s/で始	T: cat という単語を聞いて、初頭音を3回続けてから単語を言う。 S: /c/ /c/ /c/ cat. T: Pen S: /p/ /p/ /p/ pen.



	②グループに食べ物の絵カード (hamburger, sandwich, pizza, bread, French fries) を配付し、机に並べる。教師の言う単語を聞いて、その単語の初頭音と同じ単語を表す絵カードを選ぶ。 T: b-b-boy, f-f-fish, h-h-ham...	まるものを指したり、言える場合は発音したりする。	
RW 2	簡単で、意味のある語彙で生徒がすでに聞いたり産出したりする音素に一致する英語の音素を産出する	最初や最後の子音を含む、生徒がすでに聞いたり産出したりする音素に一致する英語の音素を産出する	長母音や短母音を含む、生徒がすでに聞いたり産出したりする音素に一致する英語の音素を産出する
例	絵に描かれている単語とその単語の初頭音を言う。 ライオンの絵 - lion - l サル の 絵 - monkey - m	絵に描かれている単語とその単語の最後の子音を言う。 ガムの絵 - gum - m 地図の絵 - map - p	絵に描かれている単語を見て、長母音と短母音を区別して発音する。 羊と船 (sheep と ship) 離れると住む (leave と live)
RW 3	なし	文脈の中で示された (例えば、「cat」の「a」や最後の子音)、生徒がすでに聞いたり産出したりする音に一致しない英語の音素を認識する	文脈の中で示された (例えば、「cat」の「a」や最後の子音)、生徒がすでに聞いたり産出したりする音に一致しない英語の音素を認識する
例	なし	cap, map, mop や、book, dog, pig 等、3単語を聞き、母音や最後の子音が他の2つと違うものを選ぶ。	左に同じ
RW 4	なし	全ての幼稚園での音素認識基準の熟達を示す	全ての Grade 1での音素認識基準の熟達を示す
例	なし	単語の復習練習・テストを行う。	単語の復習練習・テストを行う。

表 15. ELD 2 (Grades K-2) : RF 領域 (試案)

③ Reading: Fluency and Systematic Vocabulary Development			
	Kindergarten	First Grade	Second Grade
RF 1	何人かのクラスメートの名前、色、数字を読む	簡単な語彙、句、文を単独で読み始める	簡単な語彙、句、文を単独で読む
例	yellow, five, Midori, white, Mary, ten, などの単語カードを裏にして黒板に貼る。クラス全体を2チームにわけ、各チームからひとりずつ1枚のカードを表にして読み、正解した場合は1点の得点となる。	数回読み聞かせされた絵本の中の語彙、フレーズ、文を指で押さえながら音読する。 (例) Brown bear, brown bear, what do you see? I see a yellow duck looking at me.	左に同じ
例	なし	もっと多くの英単語を読み上げる ① フラッシュカードの単語を読む。 ② 一度読み聞かせされた絵本のタイトルを指でたどりながら音読する。 ③ 英字新聞、ペットボトル、筆記用具、食品など身の回りにあるものを持ち寄り、グループで既出語探しをして、クラスで発表しあう。	もっと多くの英単語を読み上げる。 左に同じ
RF 2	大文字と小文字を一致させる	単語を一致させる	単語を絵と一致させる
例	パパ抜きゲーム: アルファベット 26文字をそれぞれ大文字、小文字で書かれたカードを各グループ1セットずつ用意する。3、4人でグループになり、パパ抜きの要領で、同じ大文字と小文字でペアを作っていく。大文字と小文字のペアを最も多く作った人が勝者とする。	生徒にワークシートを配付する。生徒はワークシートに書かれている単語と同じ単語を3つの選択肢から選んで囲む。 ① big (pig, dig, <u>big</u> ) ② mop (hop, <u>mop</u> , top)	黒板に縦に貼られた絵カード (box, door, pool, ball, queenなど) のそれぞれの隣に適切な単語カードを貼る。その後、ワークシートで練習する。
例	なし	全ての子音の短母音の音を適切な文字と一致させる。 cat, hat, mat	全ての子音の短母音の音を適切な文字と一致させる。 左に同じ
RF 3	2つの話し言葉が同じか違うかを特定する	2つの話し言葉が同じか違うかを特定する	2つの話し言葉が同じか違うかを特定する
例	cat, cutや、make, Mikeなどのミニマルペアを聞き分ける。同じ場合は、「Yes」、違う場合は「No」と言う。	左に同じ	左に同じ

RF 4	社会的、学問的な状況における基本的なニーズを伝達するために語彙、句、簡単な文を産出する	社会的、学問的な状況における基本的なニーズを伝達するために語彙、句、簡単な文を産出する	社会的、学問的な状況における基本的なニーズを伝達するために語彙、句、簡単な文を産出する
例	袋の中のものあてゲーム：Hint, please. Cucumber?	袋の中のものあてゲーム：Let me touch. Hard? Is it a vegetable?	左に同じ
RF 5	話しているときにした誤りを自己修正し始める	読み上げているときにした誤りを自己修正し始める	話しているときや読み上げているときにしたいくつかの誤りを認識し自己修正する
例	He have ... He has a dog.	This is lion ... This is a lion family.	I live Tokyo. → I live in Tokyo.

表 16. ELD 2 (Grades K-2) : RC 領域 (試案)

④ Reading: Comprehension			
	Kindergarten	First Grade	Second Grade
RC 1	論理的な推論結果を導くために話の内容を使う		
例	T: How does the boy feel? S: Sad. / T: How is the weather in boy's town? S: Hot.		
RC 2	句や簡単な文を使いながら事実に関する理解の質問に答えることで彼らに読まれた簡単な話に口頭で応答する		
例	T: Is the girl happy? S: Yes. T: Who had money? S: Nancy.		
RC 3	話のトピックや自分の経験に関係のある絵を描いたりラベルを貼ったりする		
例	動物の話を読み、動物園や自分のペットの絵を描く。		
RC 4	教室や仕事に関する活動での簡単な指示(2つ)を理解したり従ったりする		
例	色と形の復習用に、T: Draw a circle in your notebook, and color it red. という指示を読み、活動する。		
RC 5	キーワードや句を使いながら彼らに読まれたテキストの基本的な順序を口頭で特定する		
例	教師が週末にショッピングに行った話を読み、どの店で何をしたかを順番に説明する。		

表 17. ELD 2 (Grades K-2) : RL 領域 (試案)

⑤ Reading: Literacy Response and Analysis			
	Kindergarten	First Grade	Second Grade
RL 1	簡単な文を使いながら、事実に関する理解の質問に答えることで話に口頭で応答する		
例	T: What is the lion doing? S: Hunting.		
RL 2	簡単な文や語彙を使いながら場面や登場人物を口頭で特定する		
例	T: Where are they? S: In the park.		
RL 3	簡単な詩を朗唱する		
例	教室内に Mother Goose の rhyme, "Rain, Rain, Go Away" を大きな模造紙に貼っておく。暗唱できるようになったら、T あるいは S のひとりがポインターで文字を押さえ、それを読みながらみんなで一緒に読む。		

表 18. ELD 2 (Grades K-2) : WS 領域 (試案)

⑥ Writing: Strategies and Applications			
	Kindergarten	First Grade	Second Grade
WS 1	教師によって読まれたよく知っている話の中の出来事や登場人物について簡単な文を書く		
例	Little Red Ridinghood is a girl. She has a grandmother. She is sick.		
WS 2	教室内で掲示され、よく使用される単語をキーワードを使いながら簡単な文を書く(例えば、ラベル、数、名前、週の曜日、月 "Today is Tuesday.")		
例	The door is open. The window is shut.		
WS 3	1~2つの簡単な文を書く(例えば、"I went to the park.")		
例	I have a cat.		

表 19. ELD 2 (Grades K-2) : WC 領域 (試案)

⑦ Writing: Conventions			
	Kindergarten	First Grade	Second Grade
WC 1	文の始めや固有名詞には大文字を使う		
例	I am Midori.		
WC 2	文の終わりにはピリオドやクエスチョンマークを使う		
例	Can you swim? I don't like snakes.		
WC 3	基本的な決まり(例えば、大文字やピリオド)のために文書を編集しいくつかの訂正を行う		
例	it is monday today → It is Monday today.		

#### 4.4. ELD 3 & ELD 4 & ELD 5

ELD 3 は中級 (Intermediate), ELD 4 は初期上級 (Early Advanced), ELD 5 は上級 (Advanced) レベルである。

表 20. ELD 3 (Grades K-2) : LS 領域 (日本語訳)

① Listening and Speaking: Strategies and Applications			
	Kindergarten	First Grade	Second Grade
LS 1	文法ルールに誤用はあるものの、一貫性のある標準的な英語の文法形式や音を使った発話が理解される (例えば、三人称単数、男性代名詞や女性代名詞)		
LS 2	質問をしたり質問に答えたり、情報を求めたりすることでよく知っているトピックについて友達や大人と社会的会話に積極的に参加する		
LS 3	語彙、説明的な単語、言い換えを発展させて使いながら話を自分の言葉で言い表したり、学校に関する活動について話したりする		
LS 4	簡単な文を使いながら指示的な質問をしたり指示的な質問に答えたりする		
LS 5	話/情報を注意深く聴き、言語的な反応と非言語的な反応の両方を使いながら重要な詳細や概念を特定する		

表 21. ELD 4 (Grades K-2) : LS 領域 (日本語訳)

① Listening and Speaking: Strategies and Applications			
	Kindergarten	First Grade	Second Grade
LS 1	ランダムな間違いはあるかもしれないが、一貫性のある標準的な英語の文法形式、音、イントネーション、ピッチ、転調を使った発話が理解される		
LS 2	質問をしたり質問に答えたり、言い直したり情報を求めたりすることでよく知らないトピックについて友達や大人とより広い社会的会話に積極的に参加したり、そういった会話を切り出したりする		
LS 3	登場人物、場面、筋などについて詳細に物語を自分の言葉で言い表す		
LS 4	内容理解を助けるような、指示的な質問をしたり答えたりする (例えば、"What part of the story was most important?")		
LS 5	話/情報を注意深く聴き、重要な詳細や概念を口頭で特定する		
LS 6	目的、聴衆、主題によって異なる適切な話し方を認識する		

表 22. ELD 5 (Grades K-2) : LS 領域 (日本語訳)

① Listening and Speaking: Strategies and Applications			
	Kindergarten	First Grade	Second Grade
LS 1	標準的な英語の文法形式、音、イントネーション、ピッチ、転調を使いながらはっきりと分かりやすく話す		
LS 2	質問をしたり、言い直したり、情報を求めたり、言い換えたりすることで社会的会話を上手に切り抜けたり、そういった会話を切り出したりする		
LS 3	より発展的に語彙を使いながら、より詳細に出来事を順序立てて述べたり言い換えたりする		
LS 4	慣用表現に適切に反応したり使ったりすることでそれらの理解を示す (例えば、"Give me a hand.")		
LS 5	新しいトピックに関して話/情報を注意深く聴き、重要な詳細や概念を口頭と書くことの両方で特定する		
LS 6	目的、聴衆、主題によって異なる適切な話し方や書き方を一貫して使う		

### 5. 今後の課題

#### 5.1. 学習指導要領との整合性

前述のとおり、文字指導の扱いを例にとってみても、小学校外国語活動で身につける「素地」と、中学校英語の導入時期に期待される「素地」の解釈と実態には大きな隔たりが生じるであろうことが示唆される。言い換えると、現行の学習指導要領の考え方では、小学校での「外国語への慣れ親しみ」と、中学校の「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」との間に必ずしも教育内容の整合性があるとは言えない。このことは小学校英語が教科ではないという、教育課程上の位置づけの違いに起因するものではあるが、言語政策のポリシーを理由に、小学生と中学生の双方の「学び」にとって障壁となるものを認

めて良いということにはならないと考える。

それゆえに、筆者らの研究は、将来的な小・中・高の学習指導要領の改訂にともなう、英語の教科化を想定してはいるが、現行の学習指導要領を理解することなしに進めることはできないことも事実である。学習指導要領では、外国語科の特性に応じた評価の観点を4つ (①コミュニケーションへの関心・意欲・態度、②外国語表現の能力、③外国語理解の能力、④言語や文化についての知識・理解) 提示している。このうち、「外国語表現の能力 (話すこと、書くこと)」「外国語理解の能力 (聞くこと、読むこと)」の評価規準に盛り込むべき事項や、評価規準の設定例を学ぶことで (表 23～表 26)、小学校段階でのレディネスをより具体的に考え、小学校英語用「評価ポ-

トフォリオ」作成することができる考える。

小学校英語用「評価ポートフォリオ」作成のためには、ルーブリック(rubric)も不可欠なツールである。ルーブリックとは、学習の達成度を判断する絶対評価の判断基準表のことであり、教育用語として、米国で1980年代からポートフォリオ評価法とともに広く使われるようになった。ルーブリックは、縦軸にある単元に含まれる活動内容を列挙し、横軸にそれぞれの活動で想定される評価規準と評価の観点、そしてそれらをより具体化した判断基準を整理して並べた一覧表である。安藤(2008:1)は日・米を比較し、「わが国の目標標準評価(いわゆる絶対評価)は、単元別

の評価規準に拘っているために、単元ごとにルーブリックが異なり、結果的には、子どもだけでなく教師でさえルーブリックを十分理解できず、使いこなせていない。対照的に、アメリカでは、学習活動に注目し、それぞれの評価規準にそって質的レベルの評価ができるルーブリックを使って成果を挙げているケースが多い。」と述べているが、日本で小学校英語を教科と想定したルーブリックを作るためには、教科として英語を学んでいる学習者の英語習得過程の実際を反映することが望ましく、筆者らにとっては大きな課題の1つである。

表 23. 「聞くこと」の評価規準に盛り込むべき事項と設定例(国立教育政策研究所 2011b: 22)

	盛り込むべき事項	設定例
外国語理解の能力	英語で話されたり読まれたりする内容を正しく聞き取ることができる。	(正確な聞き取り) ・強勢やイントネーション、区切りなどの特徴をとらえて聞き取る。 ・語句や表現、文法事項などの知識を活用して短い英語の内容を正しく聞き取ることができる。
	場面や状況に応じて英語を適切に聞いて理解することができる。	(適切な聞き取り) ・話されている内容から話し手の意向を理解することができる。 ・質問や依頼などを聞いて、簡単な言葉や動作などで適切に応じることができる。 ・まとまりのある英語を聞いて、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。

表 24. 「話すこと」の評価規準に盛り込むべき事項と設定例(国立教育政策研究所 2011b: 23-24 をもとに改変)

	盛り込むべき事項	設定例
外国語表現能力	自分の考えや気持ち、事実などを英語で正しく話すことができる。	(正確な発話) ・正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて話すことができる。 ・語句や表現、文法事項などの知識を活用して正しく話すことができる。
	場面や状況に応じて英語で適切に話すことができる。	(適切な発話) ・場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。 ・尋ねられたことに対して適切に応答することができる。 ・適切な音量や明瞭で話すことができる。 ・聞き手を意識して、強調したり繰り返したりして話すことができる。 ・与えられたテーマについて、自分の意見や主張をまとめよく話すことができる。

表 25. 「読むこと」の評価規準に盛り込むべき事項と設定例(国立教育政策研究所 2011b: 24-25)

	盛り込むべき事項	設定例
外国語表現能力	英語を正しく音読することができる。	(正確な音読) ・正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読することができる。
	英語で書かれた内容が表現されるように適切に音読することができる。	(適切な音読) ・意味内容にふさわしく音読することができる。 ・適切な音量や明瞭さで音読することができる。
	盛り込むべき事項	設定例
	英語で書かれた内容を正しく読み取ることができる	(正確な読み取り) ・語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を正しく読み取ることができる。

外国語理解能力	目的に応じて英語を適切に読んで理解することができる。	(適切な読み取り) ・ あらすじや大切な部分などを読み取ることができる。 ・ 書かれた内容から書き手の意向を読み取ることができる。 ・ 伝言や手紙などを読んで、その内容にあわせて適切に対応することができる。 ・ 文や文章を目的に応じた適切な速さで読み取ることができる。 ・ 話の内容や書き手の意見などを批判的に読むことができる。
---------	----------------------------	---

表 26. 「書くこと」の評価規準に盛り込むべき事項と設定例 (国立教育政策研究所 2011b: 25-26)

	盛り込むべき事項	設定例
外国語表現能力	自分の考えや気持ちなどを英語で正しく書くことができる。	(正確な筆記) ・ 語句や表現、文法事項などの知識を活用して書くことができる。
	目的に応じて英語で適切に書くことができる。	(適切な筆記) ・ 場面や状況にふさわしい表現を用いて書くことができる。 ・ 感想や内容に対しての賛否に加えてその理由を書くことができる。 ・ 内容的にまとまりのある文章を書くことができる。

## 5.2. 小学校英語指導者用「自己評価ポートフォリオ」

小学校英語用「評価ポートフォリオ」の試案作成を通して検討した「教育内容」を指導できる指導者のための「自己評価ポートフォリオ」の試案を作成する。教師教育に関するポートフォリオは進展し続けており、その適用方法の開発が課題となっているが(松崎 2012)、将来的に小学校英語が教科となり、教職課程において位置付けられる可能性をふまえ、ヨーロッパ現代言語センターの言語教職課程履修者のためのポートフォリオ ESPOSTL (Little et al 2007; Newby et al 2007) や、EPOSTL の日本への文脈化を図った中等科英語教職課程履修者のためのポートフォリオ J-POSTL (JACET 教育問題研究会 2009; ほか) との整合性を図っていく。

## 6. おわりに

本論は、中学校英語につながる目標と評価のあり方を検討し、小学校英語用「評価ポートフォリオ」作成の試みについて報告した。現行の学習指導要領のもとでは、小学校外国語活動は必修領域である。しかし、将来的な小学校英語の教科化を想定した上で、筆者らの研究では、第二言語習得研究のエビデンスに基づきながら、到達目標と目標準拠の評価をリンクさせ、学習者の学力形成の状況を適切に測定し、学力保証を目指そうとするカリフォルニア州および LAUSD の事例を参照することにした。これは、「教育内容」の視点から、日本で小・中・高の校種間における「一貫性」英語教育推進の立場

を取るものである。また、同時に、米国のスタンダード教育改革における「カリキュラムと指導、評価、アカウントビリティ、専門研修」間の一貫性システム構築の歩みから積極的に学ぼうとする考え方である。日本においても、「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価のあり方」(教育課程審議会 2000) は、現在の「評価」の考え方(国立教育政策研究所 2011a; 2011b)の土台となつたと考えられる。しかし、知識の量のみで捉えることのできない「学力」観に基づき、「目標に準拠した評価(絶対評価)」や「個人内評価」によって、教育の成果をいくつかの観点から分析的に捉える「評価の観点」とともに、学校における指導と評価の一体化が求められている。

スタンダード教育改革については、学習における「できる」を目指す「行動主義パラダイム」に立つと、それが教育のスタンダード化 (standardization)、画一化、マニュアル化に結び付くと、多様性が拒否され、教師の技能が奪われ(脱技能化)、教育のダイナミックさが失われて、学校崩壊につながるという厳しい批判もある(松尾 2010)。また、英語教育においても、ELA と ELD の 2 つのスタンダード開発それ自体には意義があるが、英語を母語とする生徒達に ELL 達を合せるという実践面での問題も指摘されている (Cummins 2000: 150)。日本においては、学習指導要領で示されている「学力の 3 要素」(①知識・技能、②思考・判断・表現、③関心・意欲・態度)の育成を目標としながら、「わかる」を目指し、学習者の「探究」を促すような「構成主義パラダイム」

のスタンダードに立つことによって、学習活動を方向づけて、指導と評価の一体化を図ることが重要である。その意味において、「真正な評価 (authentic assessment) としてのポートフォリオが果たす役割は大きく、評価ツールとしてのポートフォリオ開発を進める意義がある。学習者の学びを支える教師の専門性、すなわち教師教育のあり方を提示することこそが、筆者らの究極の研究課題と考える。

## 注釈

(注)

小中高一貫英語教育推進のための教員養成・教師教育の基準化に関する統合的研究・基盤 (C) (課題番号: 23520704 研究代表者・東海大学 伊東弥香)

## 引用文献

Adams, M.J. et al. (2002) . Open Court Reading: Level 1 – Unit 1 Let’s Read! (Teacher’s Edition) . Columbus, Ohio: SRA/McGraw-Hill.  
アレン玉井光江 (2008) . 「小学生のアルファベット知識の発達と音韻認識能力の関連性について」, ARCLE Review, 2, 112-113.  
安藤 輝次 (2008) . 「一般的ルーブリックの必要性」, 奈良教育大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 (17) , 1-10.  
California Department of Education (1999) . Reading/Arts Framework for California Public Schools: Kindergarten Through Grade Twelve. <http://www.californiawritingproject.org/Documents/lang1.pdf> (2012年8月19日引用)  
California State Board of Education (1999) . English-Language Development Standards for California Public Schools: Kindergarten Through Grade Twelve. <http://www.cde.ca.gov/be/st/ss/documents/englangdevstnd.pdf> (2012年8月19日引用)  
Cummins, J. (2000) . Language, Power and Pedagogy: Bilingual Children in the Crossfire, Clevedon, England: Multilingual Matters.  
Danielson, C. and Abrutyn, L. (1997) . An Introduction to Using Portfolios in the Classroom, ASCD.  
JACET 教育問題研究会 (編) (2009) . 「英語教員

の質的水準の向上を目指した養成・研修・評価・免許制度に関する統合的研究」(平成20年度科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究成果報告書 課題番号 19320086 / 研究代表者・早稲田大学 神保尚武) pp.1-139.

金澤延美・伊東弥香 (2006) . 「一貫性教育に位置づけるための小学校英語：英語習得と保持能力向上の調査研究」(平成16～17年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 研究成果報告書 研究課題番号 16520368 / 研究代表者・駒沢女子短期大学 金澤延美)

岸本陸久 (1998) . 「第一章『教育スタンダード』をめぐる動向」, 現代アメリカ教育研究会 (編) 『カリキュラム開発をめざすアメリカの挑戦』, 東京: 教育開発研究所.

教育課程審議会 (2000) . 「(資料) 児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について (答申)」(平成12年12月24日) の概要 . <http://www.nps.ed.jp/nara-c/gakushi/kenkyu/01hyoka-syo/hyo-61.pdf> (2012年8月13日引用)

国立教育政策研究所・教育課程研究センター (2011a) . 「小学校外国語活動における評価方法等の工夫改善のための参考資料 平成23年11月」, 東京: 教育出版.

国立教育政策研究所・教育課程研究センター (2011b) . 「評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料 (中学校外国語) 平成23年11月」, 東京: 教育出版.

LAUSD (2001a) . ELD 1 Grades K-2 (2001) – Commodity Code #9668600100

LAUSD (2001b) . ELD 1 Grades 3-5 (2001) – Commodity Code #9668600125

LAUSD (2012) . Los Angeles Unified School District Fingertip Facts 2011-2012.

[http://notebook.lausd.net/pls/ptl/docs/PAGE/CA\\_LAUSD/LAUSDNET/OFFICES/COMMUNICATIONS/COMMUNICATIONS\\_FACTS/11-12FINGERTIPFACTSREVISED.PDF](http://notebook.lausd.net/pls/ptl/docs/PAGE/CA_LAUSD/LAUSDNET/OFFICES/COMMUNICATIONS/COMMUNICATIONS_FACTS/11-12FINGERTIPFACTSREVISED.PDF) (2012年8月30日引用) .

Little, D., Hodel, HP., Kohonen, V., Meijer, D. & Perclova, R. (2007) . Training Teachers to Use the European Language Portfolio. Council of

- Europe Publishing.  
[http://archive.ecml.at/mtp2/ELP\\_TT/ELP\\_TT\\_CDROM/DM\\_layout/Booklet/C6pub2007E.pdf](http://archive.ecml.at/mtp2/ELP_TT/ELP_TT_CDROM/DM_layout/Booklet/C6pub2007E.pdf) (2012年7月1日引用)
- 松浦伸和 (教科編集) (2011). 「観点別学習状況の評価規準と判定基準 [中学校外国語]」 東京：図書文化社.
- 松尾知明 (2010). 「アメリカの現代教育改革－スタンダードとアカウンタビリティの光と影」, 東京：東信社.
- 松崎邦守 (2012). 「中学校英語科教育実習における一見ポートフォリオの作成に関する事例研究」, 英語授業研究学会 (英授研) 第24回全国大会発表資料集 (2012年8月18日, 19日) (於：神奈川県横浜キャンパス), pp. 63-66.
- 文部科学省 (2008a). 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』, 東京：文部科学省.
- 文部科学省 (2008b). 『中学校学習指導要領解説 外国語編』, 東京：文部科学省.
- 文部科学省 (2009). 『高等学校学習指導要領』, 東京：文部科学省.
- 文部科学省 (2012a). 『Hi, friends! 1』, 東京：東京書籍.
- 文部科学省 (2012b). 『Hi, friends! 1』, 東京：東京書籍.
- Newby D., Allan, R., Fenner, A-B., Jones, B., Komorowska H.& Soghikyan, K. (2007). European Portfolio for Student Teachers of Languages: A reflection tool for language teacher education. European Centre for Modern Languages.
- 東京書籍・英語編集部 (2011). 「NEW HORIZON English Course [平成24-27年度用] 評価規準例 (2011年12月16日公開)」, 東京：東京書籍.  
[http://ten.tokyo-shoseki.co.jp/material/60135.htm&TB\\_iframe=true&width=800&height=500](http://ten.tokyo-shoseki.co.jp/material/60135.htm&TB_iframe=true&width=800&height=500) (2012年9月6日引用)
- WestEd (2006). The Map of Standards for English Learners, Fifth Edition Grades K-5, San Francisco, WestEd.

